

令和3年度

自己点検・評価報告書

令和4年3月



山梨県立大学  
Yamanashi Prefectural University

## 目 次

### <令和3年度の自己点検・評価項目>

1. 教育の内部質保証・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 2～1 1
2. 学生の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1 2～1 5
3. 指摘事項への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1 6

# 1 教育の内部質保証

## (1) 現状説明

① 教育の内部質保証システムに係る実施体制や規程等が適切に構築されているか。
<点検の視点> ●教育の内部質保証システムにおける実施体制、規程等の整備及び公表
大学 <p>教育水準の向上を図り、法人の目的及び社会的使命等を達成するため、教育の内部質保証に係る規則等を策定し、明示している【根拠資料①-1】【根拠資料①-2】【根拠資料①-3】。教育の内部質保証の推進に向けて中心的役割を担うのが、理事長（学長）をトップとする「山梨県立大学大学質保証委員会」で、理事長以下、副理事長、理事、学部長、研究科長で構成する【根拠資料①-4】。令和3年度は12月、3月の計2回開催し、令和3年度計画を踏まえた点検・評価項目の設定と規則等に則った点検・評価を実施し、本自己点検・評価報告書をまとめた。</p> <p>自己点検・評価は、定款において経営審議会及び教育研究審議会の審議事項としており、関係する組織の議を踏まえて、PDCAサイクルを運用している【根拠資料①-5】。ステークホルダー（利害関係者）に対する説明責任を果たすべく、結果等はホームページに公表するなどしている【根拠資料①-6】。</p>
<根拠資料> 【①-1】 公立大学法人山梨県立大学基本規則 第5条 <a href="http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1003_kihonkisoku.pdf">http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1003_kihonkisoku.pdf</a> 【①-2】 山梨県立大学におけるガバナンス・コード <a href="http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1004_governance-code.pdf">http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1004_governance-code.pdf</a> 【①-3】 山梨県立大学における教学マネジメントに係る指針 <a href="http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2002_management.pdf">http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2002_management.pdf</a> 【①-4】 山梨県立大学大学質保証委員会規程 第3条 <a href="http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/6009_shitsu.pdf">http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/6009_shitsu.pdf</a> 【①-5】 公立大学法人山梨県立大学定款 18条、21条 <a href="http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1001_teikan.pdf">http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1001_teikan.pdf</a> 【①-6】 令和3年度自己点検・評価報告書 <a href="https://www.yamanashi-ken.ac.jp/info/plan/self_check/">https://www.yamanashi-ken.ac.jp/info/plan/self_check/</a>
② 授与する学位ごとに、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表しているか。
<点検の視点> ●課程修了にあたって、学士力（学士基盤力・学士専門力）等、当該学位にふさわしい学修成果を明示した学位授与の方針の適切な設定及び公表
大学 <p>本学の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達し、『学士力』を身に付け</p>

ていると認められる者に、学士（専門分野）の学位を授与している【根拠資料②-1】。

ディプロマポリシーは、本学のホームページで公開している。学内者には、学生便覧において周知している。

#### 国際政策学部

国際政策学部の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（国際政策学）の学位を授与している【根拠資料②-2】。

ディプロマポリシーは、本学のホームページで公開している。学内者には、学生便覧において周知している。

#### 人間福祉学部

人間福祉学部の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（人間福祉学）の学位を授与している【根拠資料②-3】。

ディプロマポリシーは、本学のホームページで公開している。学内者には、学生便覧において周知している。

#### 看護学部

看護学部の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与している【根拠資料②-4】。

ディプロマポリシーは、本学のホームページで公開している。学内者には、学生便覧において周知している。

#### 看護学研究科

看護学研究科の理念・目的及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、修士（看護学）、または博士（看護学）の学位を授与している【根拠資料②-5】。

ディプロマポリシーは、本学のホームページで公開している。

#### <根拠資料>

【②-1】山梨県立大学 3つの方針

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/f1ddee0aeabe2c779a777c9101279ffd.pdf>

【②-2】山梨県立大学 国際政策学部 3つの方針

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai_3policy.pdf)

【②-3】山梨県立大学 人間福祉学部 3つの方針

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/88c9c4643e0b59369c2af53447cff0d2.pdf>

【②-4】山梨県立大学 看護学部 3つの方針

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango_3policy.pdf)

【②-5】山梨県立大学 大学院看護学研究科 研究科概要

<http://www.graduatenuresing-yamanashiken.com/outline.html#h2-03>

③ 授与する学位ごとに、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、公表しているか。

#### <点検の視点>

●教育課程の編成方針の設定及び公表

●教育課程編成の方針と学位授与の方針との適切な連関性

大学 国際政策学部 人間福祉学部 看護学部 看護学研究科

ディプロマポリシーに基づいて、カリキュラムポリシーを設定している【根拠資料③-1】。カリキュラムポリシーは、本学のホームページで公開している。学内者には、学生便覧等で周知している。

<根拠資料>

【③-1】山梨県立大学 3つの方針

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/f1ddee0aeabe2c779a777c9101279ffd.pdf>

山梨県立大学 国際政策学部 3つの方針

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai_3policy.pdf)

山梨県立大学 人間福祉学部 3つの方針

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/88c9c4643e0b59369c2af53447cff0d2.pdf>

山梨県立大学 看護学部 3つの方針

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango_3policy.pdf)

山梨県立大学 大学院看護学研究科 研究科概要

<http://www.graduatenuresing-yamanashiken.com/outline.html#h2-03>

④ 教育課程編成の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

<点検の視点>

●各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

・教育課程編成の方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ（必修、選択等） ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定（初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等）

国際政策学部 人間福祉学部 看護学部

カリキュラムポリシーに基づき、「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」を設定している【根拠資料④-1】【根拠資料④-2】。教育課程の体系的な編成や、教育課程の可視化を目的に、大学の授業で展開されている科目に番号付けを行う「科目ナンバリング制度」を導入している【根拠資料④-3】。

単位の認定にあたっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して授業時間を定めている【根拠資料④-4】。

看護学研究科

博士前期課程は、看護の各専門分野の高度看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成するために、専門看護師コースと研究コースを置き、高度な実践能力と実践の場における研究能力、及び看護の理論とその構築について探求できるように教育課程を編成している。

共通科目は、全学生の学修の基盤となる授業科目として設け、専門看護師に求められ基礎的能力の育成に必要な授業科目を含んでいる。専門科目は、専門看護師コースでは各専門分野に必要な能力を養成するために、特論、演習、実習、特定課題研究の授業科目を設けている。研究コースでは、特論、演習、特別研究の授業科目を置いている。

単位の認定にあたっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して授業時間を定めている【根拠資料④-5】。

<根拠資料>

【④-1】カリキュラムマップ

国際政策学部 地域マネジメントコース

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_1.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_1.pdf)

国際政策学部 国際関係・観光メディアコース（総合政策学科）

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_2.pdf)

国際政策学部 国際関係・観光メディアコース（国際コミュニケーション学科）

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_3.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_3.pdf)

国際政策学部 国際コミュニケーションコース

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_4.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_4.pdf)

人間福祉学部 福祉コミュニティ学科

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap\\_HS.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap_HS.pdf)

人間福祉学部 人間形成学科

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap\\_HH.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap_HH.pdf)

看護学部看護学科

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/NN\\_curriculum\\_map\\_180414.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/NN_curriculum_map_180414.pdf)

【④-2】カリキュラムツリー

国際政策学部

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai\\_curriculum\\_tree.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai_curriculum_tree.pdf)

人間福祉学部

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/HSH.pdf>

看護学部

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/a186451fcfde50a8ecb08eecd18ecee.pdf>

【④-3】学生便覧 P19

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus\\_handbook\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus_handbook_2.pdf)

【④-4】山梨県立大学学則 第24条

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1001\\_gakusoku.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1001_gakusoku.pdf)

【④-5】山梨県立大学大学院学則 第23条

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1002\\_in-gakusoku.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/1002_in-gakusoku.pdf)

⑤ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

<点検の視点>

●各学部において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置

・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等） ・シラバスの内容（科目の目的、学士力、到達目標、実務経験のある教員による教育方法、評価方法等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 ・適切な履修指導の実施 ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ・実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施 ・各学部における教育の実施にあたっての大学質保証委員会等の関わり

国際政策学部 人間福祉学部 看護学部 看護学研究科

過剰な授業科目の履修登録を防ぎ、登録された科目に対応した適切な学修時間を確保するために、看護学研究科と一部科目を除き、1年間に履修登録できる単位数の上限を49単位までと定めている（CAP制）【根拠資料⑤-1】。

シラバスの内容は、シラバス作成要領に基づき、統一のフォーマットとし、講義の全体像が把握できるようにしている【根拠資料⑤-2】【根拠資料⑤-3】。公表までには教務委員会で全シラバスをチェックし、漏れや抜け、誤記などが無いチェックするとともに、授業内容とシラバスが整合しているかどうかは毎期に実施する学生の授業評価アンケート等により担当者が授業を振り返ることで確保している。

学生自身の主体的な姿勢と学習意欲に応じて科目を自由に選択し履修できるように授業科目を開講している。履修科目を選択する際には、特定の分野に偏らないよう配慮しつつ、自らの学修の中心となる分野に重点を置いた履修や学修目標を立てたうえでの計画的・効果的な履修を指導している。

<根拠資料>

【⑤-1】学生便覧 P20

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus\\_handbook\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus_handbook_2.pdf)

【⑤-2】シラバス

<https://info.yamanashi-ken.ac.jp/kkjh/syllabus/>

【⑤-3】シラバス作成要領（非公開）

⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

<点検の視点>

●成績評価及び単位認定を適切に行うための措置

・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他大学質保証委員会等の関わり

●学位授与を適切に行うための措置

・学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定

国際政策学部 人間福祉学部 看護学部 看護学研究科

成績評価は定期試験期間中に実施する筆記試験やレポート課題等により評価し、60点以上を合格として単位を認定している。学生には、学期ごとに成績を通知し、成績評価に対して疑義がある場合

は、成績評価に関する異議申し立て期間が設けられており、申請することを可能としている【根拠資料⑥-1】。

既修得単位の認定は、本学の教育課程に設置している科目と適合するもののみを教務委員会、または研究科委員会で判断し、認定している。国際政策学部及び人間福祉学部における3年次編入生の既修得単位の認定は、「国際政策学部編入学生の既修得単位の認定に関する取扱要領」及び「人間福祉学部編入学生の既修得単位の認定に関する取扱要領」に基づき、教員が判断し認定している【根拠資料⑥-2】。

卒業・修了要件は、学則、大学院学則等に定められており、学生便覧により明示している。卒業・修了に必要な単位数を修得した者について、教授会等の議を経て卒業・修了を認定している【根拠資料⑥-3】。

<根拠資料>

【⑥-1】学生便覧 P23

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus\\_handbook\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus_handbook_2.pdf)

【⑥-2】学生便覧 P24

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus\\_handbook\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus_handbook_2.pdf)

【⑥-3】学生便覧 P19

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus\\_handbook\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus_handbook_2.pdf)

⑦ 学位授与の方針に明示した学生の学修成果を適切に把握及び評価しているか。

<点検の視点>

- 各学位課程の分野の特性に応じた学修成果の測定方法の適切な設定
- 学位授与の方針に明示した学生の学修成果を把握及び評価するための方法の開発 <学修成果の測定方法例>ルーブリック、GPA、ポートフォリオ、学生実態調査、授業評価アンケート等

国際政策学部

人間福祉学部

看護学部

ディプロマポリシーに基づき、学生が在学中に身に付けるべき能力（学修成果）として「学士専門力」を定め、各学部の3つの方針に明示している。各科目と学士専門力の関係性をカリキュラムマップに示している【根拠資料⑦-1】【根拠資料⑦-2】。

学修成果の測定方法については、カリキュラムマップに示す学士専門力に係わる科目の学生による授業評価アンケートにおける学士力達成度に関する自己評価、それぞれの学士専門力に係わる科目の修得により測定している。

学生が意欲的に学修に取り組むことができるように、GPA制度を導入している。学修成果の判断基準を設定し、学期GPA「1.5未満」の場合は指導を行う【根拠資料⑦-3】。

人間福祉学部は、卒業研究についてルーブリック評価項目を策定、試験的に導入し、その妥当性を検証している【⑦-4】。

看護学研究科

ディプロマポリシーとの関連について、すべての個別科目のシラバスに記載しており、各科目との関連性について明示している。各科目担当者がシラバスに記載した評価方法に基づき、成績評価を行っている【根拠資料⑦-5】。

平成27年度から、学生が自己の学修状況を客観的に把握し、履修計画を適切に立て、意欲的に学修に取り組むことができるよう GPA 制度を導入している【根拠資料⑦-3】。

<根拠資料>

【⑦-1】3つの方針

山梨県立大学 国際政策学部

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai_3policy.pdf)

山梨県立大学 人間福祉学部

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/88c9c4643e0b59369c2af53447cff0d2.pdf>

山梨県立大学 看護学部

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango_3policy.pdf)

【⑦-2】カリキュラムマップ

国際政策学部 地域マネジメントコース

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_1.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_1.pdf)

国際政策学部 国際関係・観光メディアコース（総合政策学科）

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_2.pdf)

国際政策学部 国際関係・観光メディアコース（国際コミュニケーション学科）

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_3.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_3.pdf)

国際政策学部 国際コミュニケーションコース

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum\\_map\\_4.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/curriculum_map_4.pdf)

人間福祉学部 福祉コミュニティ学科

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap\\_HS.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap_HS.pdf)

人間福祉学部 人間形成学科

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap\\_HH.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/CurMap_HH.pdf)

看護学部看護学科

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/NN\\_curriculum\\_map\\_180414.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/NN_curriculum_map_180414.pdf)

【⑦-3】学生便覧 P23

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus\\_handbook\\_2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2021campus_handbook_2.pdf)

【⑦-4】1月教授会資料 「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」ルーブリック評価（非公表）

【⑦-5】シラバス

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/campus/syllabus>

⑧ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

<点検の視点>

●適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価・学修成果の測定結果の適切な活用

●点検・評価結果に基づく改善・向上

大学 国際政策学部 人間福祉学部 看護学部 看護学研究科

地方独立行政法人法第11条に基づく山梨県公立大学法人評価委員会による外部評価を受け、自己点検を行っている【根拠資料⑧-1】【根拠資料⑧-2】。

個々の教員（授業）の振り返りは、授業評価アンケートにより行っており、その結果を学生にも公表している。

<根拠資料>

【⑧－１】公立大学法人山梨県立大学 令和２年度業務実績に関する評価結果

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/hyoukakekka\\_r2.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/hyoukakekka_r2.pdf)

【⑧－２】公立大学法人山梨県立大学 令和２事業年度 業務実績報告書

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/r2gyoumujijsseki\\_s.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/r2gyoumujijsseki_s.pdf)

## (2) 自己点検・評価

### ① 改善すべき点

#### 大学

・本学の教育の内部質保証システムが軌道に乗り始めつつあるが、教育の内部質保証に対する大学の取り組みやその意図が全教職員に周知できていない。

#### 国際政策学部

・国際政策学部における育成すべき人材を明確化するため、2017年度の2年次から、2学科3コース制（地域マネジメントコース、国際ビジネス・観光コース、国際コミュニケーションコース）を導入した。その後、学生や社会のニーズに基づいてコースの内容を精査して、2021年度に改編を行った（地域マネジメントコース、国際関係・観光メディアコース、国際コミュニケーションコース）。コース改編後の各コースの学士力測定は緒に就いたばかりなので、測定の手法と結果を注視していく必要がある。

・育成する人物をさらに明確にするため、2022年度の2年次から、各コースにそれぞれ2つの領域を設定し3コース6領域制のカリキュラム再編を行った。地域マネジメントコース（地域政策領域、ビジネス領域）、国際関係・観光メディアコース（国際関係領域、観光メディア領域）、国際コミュニケーションコース（英米の言語文化領域、日本および東アジアの言語文化領域）である。これを踏まえた学士力測定についての点検が必要である。

#### 人間福祉学部

・福祉コミュニティ学科では社会福祉士、精神保健福祉士課程に新カリキュラムが導入され、社会福祉士課程において実習時間が増えることから、それに向けての指導体制および実習内容について、実習先とも連携し、検討していく必要がある。

・スクールソーシャルワークについては、実習指導の開講年度（2023（令和5年度））に向けて、実施体制の整備が求められる。

・子ども家庭福祉を柱とする大学院設置に向け、学部から大学院への接続教育を検討していく必要がある。

・人間形成学科では新カリキュラムの完成年度を迎え、教育課程を改めて精査する必要がある。

・大学アライアンスやまなしの連携により、後期授業開始が遅くなったため、保育所実習、施設実習の春休みに集中し、余裕がない。また、実習先も3月実習は避けて欲しいという要望が強い。

### ② 次年度に向けた改善方策

#### 大学

・全学的なFD教育等を実施することで、教育の内部質保証に対する大学の取り組みやその意図を全教職員に周知徹底を図っていく。

#### 国際政策学部

- ・コース改編後の各コースの学士力測定は一緒に就いたばかりなので、測定の手法と結果を注視し、課題が見つければ適切に対応する。
- ・3コース6領域制のカリキュラム再編を踏まえた学士力測定について、適切に点検する。

#### 人間福祉学部

- ・福祉コミュニティ学科では、実習の時間数増にどのように対応していくか、学科内で検討するとともに、実習先である関係団体とも連携し、協議する。また、学内での指導体制についても詳細を検討し、実施に向けて準備する。
- ・スクールソーシャルワークについて、実習実施に向けて各関係機関と調整を行い、具体的な運用方法について検討する。
- ・子ども家庭福祉士の資格について、国の動向を注視し、学科から大学院への接続教育について検討する。
- ・人間形成学科では、年次進行や免許・資格コース間のカリキュラムバランスを検討し、教育の質向上に向け、教育課程を改めて検討する。
- ・実習時期について、学生負担や実習先の要望もふまえ、検討する。
- ・子ども家庭福祉を柱とする大学院設置に向け、学科から大学院への接続教育について検討する。

#### 看護学部

- ・令和4年度から、新カリキュラムが開始される。助産師国家試験受験資格が大学の4年間で取得できなくなるため、カリキュラムポリシーの一部変更が必要となる。また、新カリキュラムにおけるカリキュラムマップの作成を進める。

## 2 学生の受け入れ

### (1) 現状説明

① 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定め、公表しているか。

<点検の視点>

- 学位授与の方針及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた入学者の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 次の内容を踏まえた入学者の受け入れ方針の設定
  - ・入学前の学修歴、学力、能力等の求める学生像
  - ・入学希望者に求める水準（学力の3要素）等の判定方法

大学 国際政策学部 人間福祉学部 看護学部 看護学研究科

学生の受け入れ方針および求める学生像、入学前能力、入学後能力、入学者選抜における評価方法は、大学、各学部、看護学研究科が制定するアドミッションポリシーに示している【根拠資料①-1】  
看護学部は選抜区分ごとに個別の選抜方法を設けており、多様な学生の確保のため、学力の3要素をそれぞれ評価し、選抜区分ごとに合否判定を行っている【根拠資料①-2】。

<根拠資料>

【根拠資料①-1】山梨県立大学 3つの方針

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/f1ddee0aeabe2c779a777c9101279ffd.pdf>

山梨県立大学 国際政策学部 3つの方針

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kokusai_3policy.pdf)

山梨県立大学 人間福祉学部 3つの方針

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/88c9c4643e0b59369c2af53447cff0d2.pdf>

山梨県立大学 看護学部 3つの方針

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango\\_3policy.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/kango_3policy.pdf)

山梨県立大学 大学院看護学研究科 研究科概要

<http://www.graduatenuresing-yamanashiken.com/outline.html#h2-03>

【根拠資料①-2】入学者選抜要項・学生募集要項等

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/facultyentrance/entry\\_requirements](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/facultyentrance/entry_requirements)（看護学部）

② 入学者の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

<点検の視点>

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

国際政策学部

人間福祉学部

看護学部

看護学研究科

学生募集は、文部科学省の指導に沿い、適切な時期に学生募集要項を公表し、選抜方法を告知している。本学 Web ページや各受験雑誌、入試広報用 SNS、オープンキャンパス等を介して広く周知するとともに、入学実績・説明会実績のある県内高校の進路指導担当教員にも案内を行っている【根拠資料②-1】。

授業料や諸経費、経済支援に関する情報は、学生募集要項や大学案内、Web ページにて広報している【根拠資料②-2】。

大学入学共通テストを除くすべての入学者選抜は、入試委員会の責任の下、各学部教員及び事務職員が実務を担当している【根拠資料②-3】【根拠資料②-4】。

入学者選抜に際して合理的な配慮を希望する志願者が申請を行い、それを入試委員会で審議することで、可能な限りの対応を行うこととしている。例えば、座席の配置変更や個室対応・指示の文書による提示など、入学希望者の要望に添う対応を適宜行っている。

<根拠資料>

【②-1】入学者選抜要項・学生募集要項等

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/facultyentrance/entry\\_requirements](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/exam/facultyentrance/entry_requirements) (国際政策学部、人間福祉学部、看護学部)

<http://www.graduatenuising-yamanashiken.com/images/pdf/r4/%E4%BB%A4%E5%92%8C4%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2%E5%AD%A6%E7%94%9F%E5%8B%9F%E9%9B%86%E8%A6%81%E9%A0%85%EF%BC%88%E5%8D%9A%E5%A3%AB%E5%89%8D%E6%9C%9F%E8%AA%B2%E7%A8%8B%EF%BC%89.pdf> (看護学研究科博士前期課程)

<http://www.graduatenuising-yamanashiken.com/images/pdf/r4/%E4%BB%A4%E5%92%8C4%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2%E5%AD%A6%E7%94%9F%E5%8B%9F%E9%9B%86%E8%A6%81%E9%A0%85%EF%BC%88%E5%8D%9A%E5%A3%AB%E5%BE%8C%E6%9C%9F%E8%AA%B2%E7%A8%8B%EF%BC%89.pdf> (看護学研究科博士後期課程)

【②-2】授業料、入学料その他の費用

<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/info/corporation/education/tuition>

【②-3】山梨県立大学入試本部入試委員会規程

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/6003\\_nyushiiinkai.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/6003_nyushiiinkai.pdf)

【②-4】公立大学法人山梨県立大学入試本部規程

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2401\\_nyushihonbu.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/2401_nyushihonbu.pdf)

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

<点検の視点>

●入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

・入学定員に対する入学者数比率・編入学定員に対する編入学生数比率・収容定員に対する在籍学生数比率・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

国際政策学部 人間福祉学部 看護学部 看護学研究科

入学定員を超過することのないように、定員充足率及び入学定員超過率の適切な管理を行っている【根拠資料③－１】【根拠資料③－２】。

<根拠資料>

【③－１】山梨県立大学在籍者数

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/r3\\_zaisekisha.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/r3_zaisekisha.pdf)

【③－２】令和３年度 山梨県立大学入学試験実施状況

[http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/20210331\\_R3\\_nyushi.pdf](http://www.yamanashi-ken.ac.jp/wp-content/uploads/20210331_R3_nyushi.pdf)

④ 入学者の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

<点検の視点>

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

国際政策学部 人間福祉学部 看護学部

入学試験に関するアンケート（入学者追跡調査）を実施し、集計結果に基づき、入試制度改善の討や入試当日業務の改善に役立っている【根拠資料④－１】。

高校訪問を行い、志願者の意向や直近の傾向を確認し、入試実施の改善の検討を行っている。【根拠資料④－２】

<根拠資料>

【④－１】入学試験に関するアンケート（非公表）

【④－２】高校訪問報告書（非公表）

(2) 自己点検・評価

① 改善すべき点

大学

・18歳人口の減少を見据えた志願者の確保と、新学習指導要領に対応した令和7年度入学者選抜における入試科目設定について、早急に対応する必要がある。

大学

・高校との関係構築を目指した高校訪問を令和3年度から行っているが、訪問回数も少なく、計画的かつ継続的に実施できていない。

② 次年度に向けた改善方策

大学

・志願者確保に向けた入試制度改革のため、学校推薦型選抜の県外枠の創設、総合型選抜の実施、後期日程の廃止等について、志願者のニーズや他大学の動向を調査の上、本学に適した制度設計を行う。

大学

・高校訪問にあたり、それぞれの時期に適した目的をもった訪問計画を立てる。  
(例示) 4月～5月 新年度のパンフレットの配布・大学説明会の告知  
8月～9月 入試出願の促進

### 3 指摘事項への対応

①自己点検・評価の一環として、外部委員等の指摘事項について対応状況を整理している。				
令和2年7月から令和3年6月までの主な指摘事項に関する対応状況は次のとおり（令和3年10月1日時点）。				
No	指摘日	指摘会議等	指摘内容	対応状況・改善方針
<b>○達成したもの（概ね達成したもの）</b>				
1	R2.11.10	第3回法人評価委員会	山梨大学と連携して経費削減していくことについて、今後の成果を期待したい。	R2.8月から山梨大学との共同調達を開始し、R2年度は約3百万円の経費節減が図られた。R3年度からは、新たにトイレットペーパー等の共同調達を開始している。
2	R2.11.27	第2回経営審議会	COC+Rによる人材育成プログラムについて、新聞等で報道されるように取り組んでいただきたい。	キックオフイベントやシンポジウム等を開催し、プレスリリースを行い新聞へ掲載された。
3	R2.12.11	中間監事監査	コロナ禍におけるオンライン授業のノウハウなどを今後の取組にも活かしていただきたい。	山梨大学との連携開設科目、社会人向けのリカレント教育などでオンライン授業のノウハウを活かしていく予定である。
4	R2.12.11	中間監事監査	学生の就職活動は厳しい状況となっているため、今後も手厚い就職支援をお願いしたい。	学生の就職活動の情報を効果的に収集共有する体制を整備するとともに、学部学科を超えて支援できる体制を構築した。
5	R2.12.11	中間監事監査	資産の除却について、適切なタイミングで行えるよう、事務局に情報を上げるよう工夫されたい。	担当課レベルだけではなく、本決算、中間決算の際に、固定資産担当も再チェックをすることで、除却漏れがないようにしている。
6	R2.12.11	中間監事監査	管理物品については原則としては10万円以上のものを登録・管理することになっているが、運用上は1万円以上のものについても管理している。費用対効果の観点からも取扱を検討されたい。	他大学の状況等も確認し、令和3年度から登録・管理する範囲を「10万円以上、または換金性の高い物品」に変更した。
7	R2.12.11	中間監事監査	物品の管理上、廃棄年月が必要なので、現物確認とともに廃棄年月の報告をしてもらえるよう回覧書面を工夫されたい。	令和3年度実施分からは廃棄年月が記入できるよう様式を変更した。
8	R3.3.5	第4回経営審議会	コロナ禍でオンライン整備に知恵や金を使っているが、対面授業ができる努力を行っていただきたい。	時間割や教室の割り振り等を工夫し、R3年度には原則対面の方針とした。一部を遠隔授業としているが、R4年度はさらに対面授業を増やす予定である。
<b>○今後改善が必要なもの</b>				
1	R2.11.27	第2回経営審議会	コロナ禍を契機に授業のあり方が変わった面もある。オンライン授業の良い点悪い点を整理していく必要があると思う。	授業評価アンケートの調査結果等により、オンライン授業のメリットおよびデメリットについて分析していく。
2	R2.7.7	第1回法人評価委員会	地域貢献活動を一般の教育活動、研究活動に反映させていただきたい。	教養教育の今後のあり方の見直しの一環として、地域を重視した教育をより充実させる方向性を検討していく。
3	R2.11.10	第3回法人評価委員会	文部科学省は教学マネジメントの推進を強く求めているため、第3期中期計画にはその点から記述が必要と思われる。	教学マネジメント体制に関することについては、第3期中期計画へ盛り込むことを検討する。
4	R3.6.19	期末監事監査	県内就職率の向上については、看護学部を除き、是非もうすこし頑張っていたいただきたい。	キャリア関係の講義やインターンシップの段階から、県内企業との多様な連携を拡大していく。
5	R3.6.25	第1回経営審議会	日本の農業人口の減少及び高齢化が危機的状況である。今までの価値観では再生できない。地域に誇りをもって地域に根差した人材を育てて欲しい。	COC+Rの取組により、企業・自治体・関係団体と協働して更に充実した実践的教育を実施していく。
6	R3.6.25	第1回経営審議会	18歳人口は、予想よりも早く減少している。国公立大学もやがて大きな影響を受ける。長期の計画を立てておいた方が良い。	第3期中期計画と併せて検討していく。